

# E—9 子どもの人格形成と家庭教育

## —親における関係認識の変革に関する試み—

東京家政学院大 黒田 淑子

1. 子どもの人格形成は、子どもと子どもをつつむ人や物の関係が発展していくなかで行なわれる。子どもをつつむ基本的な関係が展開する家庭において、指導者としての親はその関係が発展するように創造的な役割をとっていかなければならない。本研究においては、親の創造的な役割のとり方を可能にする基礎的条件を明らかにし、具体的な変革の方法について検討する。

2. (1) 質問紙法による研究 家庭生活を基盤とする具体的な関係状況において、親はどのような関係認識のもとにふるまっているか。現在の実態を、関係枠に位置づけて明確にとらえ、これからの発展方向の洞察が可能となるようにする。(幼児・児童をもつ母親を対象とする実践的研究の試み)

(2) 行為法による研究 認識的にわかったことをどのように行為化していくか。操作的認識が深まるような基礎体験をつむことができるようにする。(家庭教育を担う者の養成・訓練を中心とする研究の試み)

3. 診断即教育となりうる質問紙の活用によって、親の関係認識を「3者関係的(関係発展的)」「未来志向的」方向へ変革することができる。

「自発的役割体験」「関係参加体験」など、具体的な行為を媒介とする役割訓練をすすめることは、親における関係発展の体験と認識(操作的認識)を育てるのに役立つ。